



題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉  
 発行2016年5月1日 〈毎月1日発行〉  
**滋賀県民主教育研究所**  
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目  
 11-3 教育文化会館2F  
 TEL & FAX 077-525-5364  
 教育110番 077-523-3715  
 e-メール shiga.minken@gmail.com  
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/  
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)  
 ① ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576  
 ② 滋賀銀行本店営業部/普通口座511256  
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

自分と向き合いながら「自分ごと」にすること  
 日本生活連盟・雑誌「生活教育」編集長 浦島 清一

「18歳選挙権」の議論が活発になっている。私達の月刊誌「生活教育」でも、今年3、4月号と継続して特集を組んだ。

この問題の本質は何か？それは、未来を担う若者たちが今生きている社会とどうつながり、どう向き合うか、自分の未来を創りあげることができるといえることだ。

先日から、文科省や各教育委員会あるいは学校の対応が取りざたされている。しかし、あまり議論されていない問題が、若者たちが今の社会とどのように関わり、何を感じ、その社会と自分の未来を重ねる体験がどれだけ出てきているかということ。社会が自分の人生と関わらない限りそれに積極的に関与しようとは思えないはずだ。

選挙における投票率の低さは、大人がどれだけ社会に関わり、その中で自分のできることを見つけているかの問題だ。今の「格差社会」は、自分自身の周りから「よりよい社会にしよう」という思いよりも、「自分事」のみに追われ、他に目を向け

る余裕がない状況を生み出している。更に、大人たちには「この状況は変えられない」という思い込みさえ生まれている。それが世論調査の結果であり、投票率の低さに表れている。

立命館大学で教職課程の学生たちの中で続けられている「沖縄研修」2011年から大学の肝いりで始まった研修は、今は学生の実行委員会が主体となり、事前に現地と交流し現地に赴く。「沖縄の多様性から学ぶ！」ことを中心課題とし、毎年2月に実施される。最初は「沖縄」という観光地的な響きに惹かれながら、沖縄の歴史、戦争体験や基地問題、沖縄の言葉や文化、自然環境、更には多様な教育の現場など様々な視点から沖縄の学びを深める。特に重要にして

ているのは「人と人のふれあい」。直接沖縄で生き、住んでいる人たちと生でふれあい、学びを深める。しかし、学生たちは本土から行った「なっちゃー」がほとんど。研修の中で「辺野古」について議論。最初は「賛成とも反対とも言えない」と、外からの視線で。しかし、沖縄の人

との交流を深め、自分の生き方を振り返り、自分自身の将来像が重なる変化してくる。「基地問題、私にはわからない」といつていた学生が、まよめの発言の時、「私はこの学びを通じて、将来教師になったとき、子どもたちに平和な社会をしっかりと伝えたい。そのため基地や平和についても語れる教師になりたい」と語る。「人ごと」から「自分ごと」になる場面だ。

生きていく社会と自分の生活がどう繋がっているのか、それが見えたと、とき、生きる方向が重なる。これが主権者となることだ。だからこそ社会の動きが「自分ごと」になるため学びこそが必要になる。

(うらしませいいち)

《 今月の紙面 》

- ・【巻頭言】自分と向き合いながら「自分ごと」にすること／浦島清一……………P1
- ・「学びの共同体」に取り組んだ8年/ 夏原常明……………P2・3
- ・【部会報告】学校での主権者教育(政治教育)を考える会をスタート (第三部会)／茶谷淑子……………P4・5
- ・3.9 大津地裁決定と住民のたたかい/ 杉原秀典……………P6
- ・田園風景のなか、ゆったりとした時間を堪能できる空間を目指して/河合早苗……………P7
- ・【今学校では】玉川高校のアクティブラーニング／奥田平……………P8